

平成 19 年 5 月 11 日

報道機関各位

東北大学大学院環境科学研究科

東北大学 100 周年記念事業
講演会
「地球温暖化問題—残された時間—」
開催のお知らせ

下記のとおり、講演会「地球温暖化問題—残された時間—」を開催しますので、地球環境に問題意識をお持ちの皆様のため、広く周知をお願いいたします。

地球温暖化問題は、私たちの豊かな生活の代償として課せられた問題であり、すでにその兆候が異常気象などに現われていることから、次世代に先送りできるような時間は残されていないのかもしれませんが。この問題について詳しい情報を知った上で、私たちが為すべきことを考えなければなりません。

今回の講演会では、地球温暖化の科学、技術と政策、私たちの生活、の 3 つの側面から、日本を代表する専門家の皆様に分かりやすくお話しいただくことにいたしました。また、パネルディスカッションでは、参加者の皆様と一緒に、地球温暖化問題について議論したいと思っております。

記

開催日時 平成 19 年 5 月 26 日（土） 13：00～17：00
場 所 東北大学片平さくらホール（片平キャンパス内）
内 容 別紙参照

（会場の収容人数の関係から、先着 190 名様に限らせていただきます）

***** お問い合わせ先 *****
東北大学大学院環境科学研究科 研究企画室 物部（ものべ）
TEL：022-795-7408
e-mail：monobe@mail.kankyo.tohoku.ac.jp



地球 温暖化 問題

— 残された時間 —

● 東北大学講演会 ●

「地球温暖化の科学」

講師：花輪 公雄 氏 (東北大学大学院理学研究科 教授)

「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」は、第4次評価報告書、第1作業グループ (科学的基礎) のレポートを本年2月公表した。その中で、現在進行中の地球の温暖化は人為的なものであると断定した。本講演では、IPCCの活動を紹介するとともに、地球温暖化が起こる仕組みや、今回、この結論に達した科学的根拠について紹介する。

「低炭素社会の到来」

講師：西岡 秀三 氏 (前国立環境研究所 理事)

気候変化に対応して世界は大きく変わりつつある。2050年までに50%以上の温室効果ガス削減が必要とされるのはなぜか。果たしてそのような社会が実現できるか。今後日本はどのような対応が必要なのか。2050年の日本の低炭素社会像を描く

「地球温暖化と私達の生活」

講師：ピーター・D・ピーダーセン 氏

(㈱イースクエア 代表取締役)

Smarter Living ~賢く生きること、LOHAS志向のライフスタイルはどう「脱炭素化」に寄与するか? 炭素中立市民、電力会社からお金がもらえる家、「ソーラー年金」、炭素明細の来るクレジットカードなど、格好いい「脱炭素ライフ」の新潮流を探る。

パネルディスカッション

司 会：石田 秀輝 氏

(東北大学大学院環境科学研究科 教授)

パネラー：花輪 公雄氏・西岡 秀三氏

ピーター・D・ピーダーセン氏

日時：5月26日(土) 13:00~17:00

場所：東北大学片平さくらホール

仙台市青葉区片平二丁目1-1 (片平キャンパス内)

主催：東北大学環境科学研究科・東北大学工学研究科

後援：財団法人 青葉工学会

申し込み先：東北大学大学院環境科学研究科研究企画室 TEL:022-795-7408 FAX:022-795-4309
monobe@mail.kankyotohoku.ac.jp 先着190名まで受け付けます。